病児保育協議会ホームページ http://www.byou.iihoiku.net/

第66号

2012年 (平成24年) 10月1日

[発行人] 会長稲見 誠 〔発行〕**全国病児保育協議会**

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-22-13 いなみ小児科内 TEL.03-3421-4885 FAX.03-3411-4936

九州北部豪雨で被災されたみなさまへ

このたびの九州北部を襲った豪雨により被災された皆様に謹んでお見舞申し上げますとともに、一日も早く復旧されますことを心からお祈り申し上げます。

2012年9月1日

一般社団法人 全国病児保育協議会会長 稲 見 誠

第22回 全国病児保育研究大会 in 神奈川 大会特集号

一般社団法人 全国病児保育協議会会長に就任して

一般社団法人 全国病児保育協議会長 稲 見 誠

この度、木野 稔 前会長の退任により一般社団法人 全国病児保育協議会会長に就任いたしました。

歴代の会長の方々に比べ大変微力ではありますが、協議会、病児保育の発展のために全力を傾けて務める 覚悟でございますので、何卒皆様のご指導ご鞭撻を賜 りますよう、よろしくお願い申し上げます。

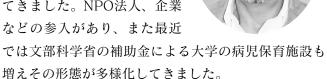
7月15日の総会に於いて、全国病児保育協議会は一般社団法人として新たなスタートをきりました。法人化したことにより協議会の運営は法的な規制を受けることになりますが、その立場はより公的なものとなり発言力も強くなります。

また、厚生労働省などとの交渉に於いても任意団体 より有利な位置に立つことが出来るでしょう。



▲ 全国病児保育研究大会in神奈川 会場

さて近年、病児保育施設数は増加し、国庫補助を受けている施設が1500箇所を超えてきました。NPO法人、企業などの参入があり、また最近



そのような状況下で協議会会員施設はもちろんのこと全国の全ての病児保育事業の質の向上と健全な発展のために貢献できるのは一般社団法人全国病児保育協議会しかありません。そのためには協議会活動のより一層の活性化が重要になります。

現在、協議会の活動は、全国研究大会、支部・ブロック研修会、各委員会、保育園型プロジェクト、自己評価プロジェクトなどが中心となっていますが、更に本年度から病児保育の質を向上させ専門性を高めるために、病児保育に携わるスタッフのための個人認証制度プロジェクトや、施設の質を保証するための施設認証制度プロジェクトも活動を始めます。

究極の子育て支援である病児保育が健全に発展する ためには、皆様方の協議会活動への参加や支援が必要 になります。

よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

第22回 全国病児保育研究大会 in 神奈川を終えて

第22回全国病児保育研究大会 会頭 池田 奈緒子

第22回 全国病児保育研究大会in神奈川が、7月15日(日)、16日(月・祝)慶應義塾大学日吉キャンパスにおいて開催されました。両日ともお天気に恵まれ、770名余の方々のご参加をいただき終了しました。

今大会は、テーマを、「子どもたちの笑顔を願って~保育室から喜び 悩みを持ち寄ろう~」としました。従来からの講演、研修を更に充実させる一方、五感・体を使った参加型の企画を多く用意し、実際の保育現場で工夫していること、悩んでいることなどを持ち寄り、翌日からの保育現場で活かせる何かを持って帰っていただけるようにと、計画・開催いたしました。

【講演】は、〔特別講演〕 〔教育講演〕 3講演で構成しました。

[特別講演] は、今回は元厚生大臣を務められた全国社会福祉協議会会長斎藤十朗氏に「消費税増税を考える」という題でのご講演をいただきました。タイムリーな演題、講師ならではのわかりやすくかつ実名入りのお話に会場も大いに湧いていました。

[教育講演] は、心理・下痢・食育をテーマに講師を お招きしました。

- ・心理は「児童思春期の精神保健臨床」という演題 で国立国際医療研究センター児童精神科田中徹哉 氏にお願いしました。
- 下痢をテーマに「乳幼児の繰り返す下痢」と題して慶應義塾大学小児科助教関口進一郎氏をお招きしました。
- ・食育については「子どもの発達と食育」と題し、白 鷗大学教育学部教授高橋美保氏から、興味深いご 講演をいただきました。

これまでに届いた感想では、どの講演も大変勉強になった、時間が足りないくらいだった、とご好評を頂きました。

行 政 説 明

今年は**[行政説明]** に厚生労働省保育課から橋本泰 宏課長が来られ、大変にわかりやすい説明をいただき ました。

~【ワークショップ】は、6コマ計画しました ~

[ワークショップ①]

"ミツル&りょうたの歌って踊って遊びまショー"

座って楽しめる遊び歌「ジョーンズ博士」「宅配便」、 何度も踊りたくなる「昆虫太極拳」など、一緒に歌え る歌、簡単に演じられるシアターなどを楽しみました。

[ワークショップ②] "あやとりで繋ごう心の輪!"

一本の紐だけで、何でも表現でき、何人でも何時間でも遊び続けられる「あやとり」の、簡単なイメージ遊びから、あやとり手品、お話つきあやとりなどを学びました。ポケットにひもを一本入れておけば楽しめる、明日からの保育に使えると好評でした。

[ワークショップ③]

"病児保育室で楽しむわらべうた遊び"

「わらべうた」には、大人が子どもをあやしたり育 てたりしながら使ってきた「遊ばせ遊び」、子どもた ち同士の遊びからできた「遊びうた」、大人が子ども に歌ってあげた「遊ばせうた」がありますが、その中 でもゆったりとした雰囲気の中で行う「遊ばせ遊び」 と、お手玉や布、人形などを使う「遊びうた」を楽し みました。

[ワークショップ④]

"みんなで楽しむ製作遊び"

9月の事前アンケートで、異年齢の子ども2~3人

と遊ぶにはどうしたらいいか、設定遊びはどうしているか、手作りおもちゃや様々な遊びの工夫を知りたい、という悩みや質問が多く寄せられたことから、"2歳児と5歳児が一緒に遊ぶ"などを想定しながら、実際に製作~遊びの実践を行いました。

また、参加者から事前に集めた "遊びの引き出しファイル "の紹介もしました。

[ワークショップ⑤]

" あなたの声を聴きたくて— (ロールプレイにより)" 「保護者のへのカウンセリング的対応を学ぶ—」パート2

第19回全国病児保育研究大会in千葉で大好評だった ロールプレイをどうしてももう一度、という熱いアン コールに応えて続編をお願いしました。本来ならば3 時間位の時間をかけて行いたいということで、1時間 半では大変短かったと思いますが、今回も大変好評で 今後の保護者対応に役立てて行きたいなど、感想がた くさん寄せられました。

[ワークショップ⑥] "病児保育の食事を考える"

9月の事前アンケートで食事に関して寄せられた中から、保育環境が似通っている施設ごとにグループを作って、悩みを共有し解決策を模索しました。問題点・疑問点についてのスムーズな情報交換のために、参加者が決まった時点で再度お願いしたアンケートを参考にしながら討議内容を深め、他施設の良い点・工夫点など、さまざまな知識を得られたと思います。6コマ全て、ワークショップとしては一つ一つの人数が多かったのですが、参加者の協力と講師の工夫で実り多いものとなりました。

~【特別企画】は、以下の3つを計画しました~

プロボーカルグループjammin'Zebによる「コーラス教室」でした。コーラスの楽しさを十分味わった後は、皆で声を出してのレクチャー、最後はアカペラの"さくら"で締めくくられました。

【特別企画 II 】

JALの折り紙ヒコーキ指導員資格保有職員による「折

り紙ヒコーキ教室」でした。幼いころには誰でも一度 は作ったことがある折り紙ヒコーキですが、折り方を 習うとこれほどまでに飛ぶのか、なかなか飛ばないヒ コーキでもほんの少しの手直しで見違えるほど飛ぶよ うになること、などコンテストも交えて参加者一同す ぐにでも誰かに教えてあげたくなりました。

【特別企画 Ⅲ】

あそび工房らいおんバス犬飼聖二氏による「ワンちゃんコンサート」を開催しました。前の方は車座になって、一緒に歌ったり遊んだり。この大会の最後が大変楽しく締めくくられました。

【特別企画】3つの全てに大絶賛を頂き、嬉しい声を 講師の方々に届けさせて頂きました。



【懇親会】は、1日目夕刻より、慶應義塾大学内学生 食堂にて開催されました。開場から、慶應義塾ワグネ ルソサィエティオーケストラの弦楽四重奏によりお迎 えし、1曲お聴きいただいたのち、開会。会頭挨拶、 会長挨拶のあとで、実行委員長挨拶とともに地元神奈 川県で地元のお米だけを使って純米酒だけを作り続け ている泉橋酒造いずみ橋の鏡開きが行われました。会 途中で披露された慶應義塾應援指導部チアリーダーに よるパフォーマンスにはアンコールをいただき、大変 盛り上がりました。 (文責:広報委員会)

お知らせ。

第23回 全国病児保育研究大会 in 山口

「やさしく見守ろう」 ~ みんなちがって みんないい ~

日 時: 平成25年7月14日(日)~15日(祝) 場 所: ANAクラウンプラザホテル 宇部



会 頭:**鈴木 英太郎**

事務局:鈴木小児科医院

(山口県宇部市)

〔写真提供:スナップスナップ〕





















分科会 [口頭発表

O-1-1は、ほっとルームの長谷川先生から「気になる親子に対する病児保育室としての関わり方」の発表でした。継続した子育て支援ができない悩みは多かれ少なかれどこの病児保育室でも感じていることと思います。今回は母親の育児不安の軽減が病児の心の安定につながったと思われる2つの事例との関わりを紹介していただきました。少人数保育だからこそできる親子支援がそこにあると思いました。

O-1-2は、病児看護センターベアーズデイサービスの谷本先生から「保護者が病児保育利用を決めた時間帯の調査について」の発表でした。利用者の増加により利用予約制を開始した経緯と実際の利用者の動向について調査、検討をされたものでした。病児の受け入れには、疾患による部屋分け、病児の年齢や病状の重症度などにより保育者の数や配置など考慮しなければいけない点が多数あります。予約制を導入された事で病児保育室の管理運営上安全面への配慮もなされ、ますます地域の子育て支援に期待されるものと思います。

O-1-3は、こどもデイケアプリムラの佐藤先生から「病児一人一人の年間利用日数と利用実績の定量分析」についての発表でした。サブタイトルに第2報とありましたように、昨年に引き続きのご発表でした。病児保育利用者は上気道炎でなおかつ単発での利用が多いだろうと定性的には感じているものを、定量分析

座長: 病児保育室 バンビーノ 佐藤 里美

されることで具体的に頻度の違いを示されました。定量分析には日々のデータの集積が必要となり時間的にも大変なご苦労があるものと思います。今後も継続された研究結果を発信していただきますよう祈念いたします。

O-1-4は、すくすくハウスの福隅先生から「病児保育士の小児科外来における実務実習の成果について」保育士のスキルアップに向けた小児科での研修内容とその実践報告でした。病院で子どもたちがどんな検査、治療を受けているか知ることで、保育室での子どもたちへのかかわり方も変わってくるものと思います。今後も実習の継続と、多施設でも可能なカリキュラムの提案を期待します。

〇-1-5は、うさぎのママ吉田先生から「インフルエンザA型、B型の同室保育における室内感染についての調査」でした。同室保育した病児を追跡調査した結果、室内感染による発症はなく、同室管理できるという発表でした。会場からは抗インフルエンザ薬の使用についてや同じA型でもウイルスの違いについてなど保育士さんには少々難しい質問もありました。今回の発表はインフルエンザについてでしたが、日常同室管理について迷う疾患も多くあると思われます。皆様には協議会で出されている感染症ガイドラインを是非活用していただきたいと思います。

分科会 II 口頭発表

分科会IIでは5題の発表がありました。

まず1題目は岩手県南部にある病児保育所の開設までの4年に及ぶ取り組みが紹介されました。過疎地であっても働く母親たちを支えるために必要であることが訴えられていて、私達も必要性について改めて強く感じさせられました。

2題目は保育所併設型の保育室が、併設保育所の保 育士と兼任にすることで、専任看護師にも保育士にも 座長:ぽけっと病児保育室 島村恵美子

いい結果が出るとともに、病児保育室の運営も円滑になるという発表でした。利用の変動が大きい病児保育室には、流動性のある人手の確保が出来る事は大きなポイントになるのが立証された発表でした。

3題目は一人親の利用調査で、一人だと経済的なし わ寄せが子どもの養育に生じ、また漠然とした将来の 不安を感じているであろうという結果でした。どの保 育室も一人親の利用は多く、子育て支援としての機能 をますます発揮しなくてはと思わされました。

4題目は学生がボランティアとして病児保育室に入り、遊びを通して関係を作っていった事例報告でした。ボランティアという立場から純粋に子どもに向き合い、関わった事で慣れない場所での子どもの心の変化がよくあらわれていました。

5題目は地域勉強会で取り組んでいる保育看護計画 の発表でした。まだ立案した段階という事で、実践を 重ねながらさらなる有効活用が出来るものにしていっ てほしいと感じました。質疑応答も多く活発な分科会 となりました。

ポスターセッションI

座長: 洋光台中央福澤保育センター 松崎 恵美子

今年も、たくさんのポスターが掲示され、大会2日 目にはポスター前での口頭発表がありました。

開催時間が12時30分という早い時間にもかかわらず、たくさんの方々にお集まりいただきました。演題は様々な角度から病児保育を考えたものが多く、大変興味深い発表の場となりました。

親子の気持ちにより一層、寄り添うためにはどうしたらよいのか。その日一日を楽しく過ごせるための工夫、又、子どもの安全を確保するための環境の見直し等常に考え続ける問題に加え、スペシャリストとしての役割を考えたものや病児保育室での発達評価の試みなど今後に役立てる題材がたくさんありました。

1題10分という短い持ち時間でしたので、活発な討論会とまではいきませんでしたが、貴重なご意見も

いただくことができたと 有意義な時間だったと 思います。どの施設も 色々な悩みを抱えなが らも、子ども達そしり 保護者のためにより優れた環境での保育看された環境での保育看も のだと改めて感じた時間でした。



ポスターセッションII

ポスター発表Ⅱでは、4題の発題がありました。

2-1 「病児保育で症例検討を行う意義について」では、児を取り巻く問題を様々な角度から見ることで、多くの気づきがあり問題解決に取り組む姿勢に感銘を受けました。

2-2「乳幼児と保護者の病児保育利用時の心理的 影響における検討」では、アンケートをすることにより、 実際に利用されている保護者の困り感に触れて、より 具体的な援助に結びつく研究になったと思います。

2-3「病児保育利用児への病状変化時の対応」では、病児保育室での感染拡大予防をめざして、利用児の病状の変化や悪化に留意すること、施設内感染を最小限にとどめるための必要性などを伝えてくれました。

座長:エンゼル多摩 三浦 寿美子

2-4「病児保育室での年間行事計画」では、利用 促進を目的として休日に取り組んだ行事が利用者に良 いイメージを与え、お互いの理解を深めるきっかけに なったと報告されました。

これらの発題に対して、会場からの質問もあり、傾聴していた仲間を大いに刺激してくれました。このような様々な取り組みが保育看護の質の向上を支えていくのだろうと感じる瞬間でした。



ポスターセッションⅢ

会場を埋め尽くすほどたくさんの方々にお集まりいただき、着座での聴講となりました。3-1「病児保育室での人物画を利用した発達評価の試み」では、グッドイナフ人物画知能検査を利用した個々の子どもの発達に合った対応をするための試み、3-2「病児にも保育士にも利用しやすいあそび・製作物一覧のファイル」では遊びや製作物などの知識を集約したファイルを作成し遊

びの充実を図った試み、3-3「病児保育室においての

座長:エンゼル多摩 小川 明子

'わらべうた遊び'実践例の報告」では地域勉強会で学び合ったわらべうた遊びの実践、3-4「保育の環境プロジェクト~おもちゃの検討を通して~」では'保育環境プロジェクト'による玩具を通した保育環境の見直し、以上の4題の報告がありました。

どの報告からも、子どもの最善の利益を考え検討を 続けている日々の姿が垣間見られ、保育看護の質の向 上のために頑張っておられることを強く感じました。

感染症対策委員会

感染対策委員会による感染症セミナーは大会2日目に行われました。会場は定員200名でほぼ満員の盛況です。セミナー参加者には一部改訂された感染症対策ガイドランもしくは改訂表が配られました。

セミナーは荒井宏治先生の予防接種の解説で始まりました。予防接種の分類から予防接種が個人の免疫と 共に集団としての免疫力の向上維持に必要なことが力 説されています。この集団としての免疫力が流行を阻 止し、ひいては感染症根絶につながるのです。 続い

感染症対策委員会委員長 大川 洋二

て佐藤勇先生による感染症のトピックが解説されました。個々の疾患の解説と共に登園の基準について分かり易く説明されました。

最後に大川によるガイドラインに関するアンケート 結果の説明がありました。ガイドラインの解説は解り 易く、採用施設も80%と高いものでした。またインフ ルエンザ、おたふく等4月に改訂された新たな登園基 準も解説しました。講演後の討論も活発で、冷房が効 いた会場に夏の熱気が入り込んでいるようでした。

調査研究委員会インシデント管理委員会

インシデント管理システムの本格導入に向けて

インシデント管理委員会委員長 向田 隆通

mims (マイムス) とは、インシデント発生を防ぐ道具です。些細なインシデント、ヒヤリ・ハット、事故の報告を積み重ねることで、1つの重大事故を防止できる事を目指しています。mims (マイムス) は、そのインシデント、ヒヤリ・ハット、事故の報告を簡単に入力でき、そのデーターを他施設と共有し検討することができます。研究大会では、mimsの実際の使用方法や事例の概要、DVDによるインシデント、ヒヤリ・ハットの模擬事例の供覧、インシデント管理システムの先

進導入施設での検討報告、mims導入施設の導入前後での変化のアンケート報告を行いました。そして、mimsの開発元の管理工学研究所による、mimsを使いこなす5つのこつを話していただきました。

mimsを使用し、他施設の事例研究をすることによって、自施設での重大事故を防ぐように協議会全体で努力しましょう。mimsの導入をお考えの施設、インシデント、ヒヤリ・ハットに悩んでいる施設は、事務局か向田までご一報ください。

保育園型プロジェクト分科会

座長:砂原保育園病後児保育室「とまと」 高橋 広美

保育園併設型病後児保育の現状について2施設から発表をしてもらい、質疑応答形式でディスカッションしていく形で会を進めた。(参加人数 52名)

実 践 発 表 ①

ゆうゆうくじら保育園 病後児保育室「くじらのおうち」園長 **本田 直子**

病後児保育が重要な事業として掲げられているものの、実現化されていないことをデーターに基づき分析。子どもを取り巻く環境は多様化し一人ひとりに合った援助が必要であること、子どもの成長にあった関わりを支援すること、「もう一日…」に対する意識付け、利用対象児を、小学校低学年までとするのではなく、その先の児童の不安にも援助することなどを明確化にした。

認知度が上がってくると同時に上手に利用する方が 増え、利用前は「病気の子を預けるなんて…」と不安 を抱えている保護者も一度利用すると安心し「また預 ける」という気持ちに変わる。

看護師は利用がないときは保育園に入りコミュニケーションを取り、自身のスキルアップにつなげ、普通保育の状況を把握することで病後児保育を利用した方々の普通保育への移行時期のアドバイスにも役立てているとの事。食事は、保育園の給食を症状に合わせて提供しており、受付時に症状をきちんと聞くなどの細やかな対応に心がけている。

発表②

横浜の保育所併設病後児保育室 きらら保育園園長 **森田 倫代**

横浜市の病児・病後児保育への取り組みや連携を、 横浜市病児保育協議会のあゆみを通して紹介。

「病後児とはいえ"病"と付く子どもを預かれるのか」という不安から始まったこと、ミニ研修会の内容、協議会として全国病児保育協議会での分科会発表、登録用紙共通化など図ってきたが、会員が6施設から4施設に減り、横浜市病児保育協議会としての危機を感じながらも、共有の場の必要性から活動を続け現在に至っている

病児か病後児の判断は難しく、線引きもできないの で、医者から医療情報提供書を書いてもらったら、そ れは病後児だとの理解で行っている。

利用終了後は医療情報提供書を書いてもらった医院 に独自の連絡表で、どのように病後児保育室で過ごし たかを報告するようにした。保育園型の良さは個別対 応の食事の提供ができること。温かい食事、症状にあっ た食事の形態を提供できること。

利用率が上がらないのが悩みだった。しかし、登録 用紙を全園に配布したら毎日利用があるようになっ た。キャンセルが多いが、「良くなったから」もしくは、 「悪化したから」というように考え方を整理した。

保育園型プロジェクトのまとめ

2施設の発表を基に、保育園併設型の病後児保育の現状で抱えている問題から今後の課題を見出し、保護者支援のあり方や加盟施設を増やすための案、保育園併設型が大切にしなくてはならないことなど沢山の意見が出された。

「何としてもこの事業をやる」という強い意思で取り組み、地域や施設仲間と一体となって保育園併設型を盛り上げ、勉強会の開催やミニ研修会を行いスキルアップにつなげる取り組みが必要と感じた。

また、子育て支援としての病後児保育室の役割は、 もう一日ゆっくり休めるように利用しやすい環境を作 り保護者を導いたり、適切なアドバイスしたりするこ とも重要な支援と思われた。

参加者メンバーが、2施設の発表を聞いて自分の施設を振り返った時、疑問に思ったこと、また、アドバイスできること等を意見交換したり、情報を集めたりすることができる、実のある研修会、魅力ある研修会であってほしい。そのためには、何が必要で、どのような協力ができるのかということが、メンバーに投げかけられた。

例えば、各ブロックでも行われている「何でも話し合える場」を、今後も大会のプログラムに位置付けていく必要性を再確認し、まだ加盟していない保育園併設型病後児保育施設が、参加したいなと思えるような研修内容を構築しアピールしていく方法を考えていかなければならないのだと思った。

そしてこのプロジェクト会議に集まって、課題や方向性を確認しあいながら共通の意識を持って行っていくことで、保育園併設型のすばらしさを広めていけることが期待されているのだと思う。

来年宇部市で行われる大会においても、積極的に保育園併設型の意見交流が行われるよう期待したい。実践発表したい保育園は、ぜひ事務局にお知らせいただきたいと思う。

第11回 愛媛支部研修会報告

むかいだ小児科 キッズハウス 向田直美

去る9月9日、愛媛県支部研修会を松前町総合福祉 センターに於いて、32名の医師・保育士・看護師が参 加いたしました。

今年の研修会は、協議会副会長で、感染症対策委員 会委員長の大川洋二先生にお越しいただき、「病児保育 での感染症対策」について講演いただきました。

研修会を計画するにあたり、4月1日発行の協議会ニュースNo.64号に、「感染症対策委員会の出張講演」の案内が掲載されていたので、これはぜひお願いしたい!と思い企画しました。

愛媛支部の会員は、なかなか全国大会への参加が難 しいということもあり、先生のお話を初めて聴講する 方が大半でした。日頃、疾患によっての部屋割りには 苦慮しているところが多いことから、皆とても熱心に 勉強させていただくことができました。

今までの自施設の運営方法を見直すきっかけとなり、また自施設版のガイドラインを、協議会版「GreenBook」(病児保育感染症ガイドラインを大川先生はそう称されていました。)を元に作成し、無理のない感染症対策を講ずることができる、という自信も得られたようです。各施設の明日からのモチベーションアップにつながりました。

また、インシデント管理システムについても、調査研究インシデント管理委員会委員長の向田隆通先生より「インシデントについて」と、管理ソフト「mims」について講演いただきました。

インシデント管理の講演を聞いた後、午後からは実





際に各施設で発生したインシデントの内容についてグループ討議を行いました。インシデントの報告をあげることに躊躇してしまう、いざ報告書を書くとなるとどう書いたらいいかわからない、と、戸惑うスタッフもいましたが、グループ皆で、なぜインシデント報告を行うのかというところから時間をかけて話し合うことで、「子どもにとってより安全な、親御さんにとってより安心して預けることができる病児保育」を実践していくために重要なことであるということを認識することができました。

大川先生のご講演のなかで、「室内感染は起こる。しかし、その都度なぜ起こったのかを検証し、その都度自分たちなりに改訂していけばいい。絶対は求めない。」という内容のお話がありました。これは、インシデントとも共通する面があるように思います。

支部の会員からは、大川先生のお話をもっと深くお聞きしたいという感想もありました。各論についてもお聞きできる機会が得られることを期待して、この度の報告といたします。

感染症対策委員会では、地区勉強会、ブロック会への 出張講演をお引き受けいたします。

研修テキスト、感染症ガイドラインの 講演を致します。

御要望がある方は希望する項目を明記して事務局に 講演の3カ月前までにお申し込みください。講演予 定日は日曜日にお願い致します。

平成23年度 三重ブロック学習交流会

平成24年3月18日、三重ブロック学習交流会を行いました。昨年、一昨年と三重県との共催による「病児・病後児保育研修会」が行われていたため、学習交流会としては3年ぶりの開催となりましたが、県内7施設34名の病児・病後児保育関係者に参加していただくことができました。

交流会に先立ち、桑名市子ども家庭課高木守課長よりごあいさついただきました。次いで、病児保育協議会常任協議員の羽根靖之先生、会場となったウエルネス医療クリニック院長多湖光宗先生からも、病児保育事業を始めるきっかけとなった話やこれからの病児保育についてお話をいただきました。

その後、参加者全員で「入室・受け入れ」「緊急時(災





害時)の対応」について各施設での悩みや困っていること、工夫していることを話し合いました。特に、災害時の対応については、各施設とも取り組むべき問題と認識しながらも、取られている対応も様々で、意識に差があることがわかりました。

しかし、交流会により各施設の情報を知ることができ、緊急時は三重県内の事業所同士で助け合うことが大切であるということ、また県外にもその輪を広げていくこと、すぐ対応できるよう日常から交流する機会を増やし、今までよりも結びつきを強くしていく重要性を知ることができ、有意義な交流会になったのではと思います。

ホームページがリニューアルしました



一般社団法人 全国病児保育協議会のホームペーシがリニューアルしました。病児保育に関わる情報等を、随時更新しておりますので、時々のぞいてみてください!今後は、加盟施設の方のみが見ることのできる「会員専用ページ」も作成し、国の制度などについてもお知らせしていく予定です。

※ 古いキャッシュが残っていると、ページが更新されないことがあります。ホームページを見られたら、時々、パソコンのF5のキーを押してみてください。

全国病児保育協議会ホームページ URL http://www.byoujihoiku.net/

全国病児保育協議会

検索



事務局より



1. 年会費納入のお願い

今年度は法人化への移行のため振込用紙の発送が遅れましたことをお詫び致します。 先日お手元に届きましたお振込用紙で、できるだけ早めのお振込をお願い致します。

平成24年度分

- ◎ 事業年会費 補助受託施設 ……25,000円
- ◎ 事業年会費 補助未受託・未開設 … 12.000円
- ◎ 事業年会費 個人 ……… 5,000円
 - ※ 上記のいずれかで当てはまる方の金額をお納めください。
- ◎ 賛助会費(1口) ………10,000円
 - ※ 賛助会費は当会の活動にご賛同していただける場合、事業年会費と併せてお振込みください。

【振込先】〔郵便振込み〕 口座番号 00140-8-378172名 義 一般社団法人 全国病児保育協議会

2. マニュアル、テキスト等の購入について

事務手続きの都合上、大変申し訳ありませんが代金先払いでお願いいたします。 注文書をFAXで送付いただき、振込確認が取れしだい着払いにて発送致します。請求書、納品書等必要な方は事務局にご連絡ください。

3. 入会・退会について

入会ご希望の方はHPより入会申込書をダウンロードしていただき、記入、押印し、入会金、年会費をお振込の上、事務局に入会申し込み書の郵送をお願いします。退会ご希望の方は退会希望と明記し、施設名、住所、電話番号明記の上、FAXでご連絡ください。

4. その他

施設一覧表、または先日挨拶状を送付致しました封筒の宛名に皆様の施設番号を記入してい

ます。これからのお問い合わせ、振込の際は施 設名の前に施設番号のご記入をお願い致します。

■ 事務局を大阪から東京に引継ぎ少しずつ動き始めました。まだまだ順調にはできないことばかりですが頑張って行きますので、皆様、よろしくお願い致します。

お問い合せ先

全国病児保育協議会事務局

事務局長 池 田 光 江

〒154-0002 東京都世田谷区下馬3-22-13 いなみ小児科内 FAX:03-3411-4936



『拝見!となりのパンフレット』企画 ご協力ありがとうございました!





「拝見!となりのパンフレット」企画に、たくさんのご協力を頂き、誠にありがとうございました!!

おかげさまで、計121施設からのパンフレットが集まり、パネル24枚に及ぶ展示となりました。

ここにお礼を申し上げるとともに、アンケートの集計結果が出ましたので、この場をお借りしてご報告させていただきます。パンフレットは、かわいらしいイラストが用いられ親しみやすいものや、写真の入ったお洒落なもの、シンプルに必要な情報をまとめたものなど、各施設の特色が出ていました。冊子タイプ、A4チラシタイプなどがありましたが、三つ折のものが一番多く使用されていたようです。

送付と同時にお願いしていたアンケートの結果とし

ては、配布場所として多かった「自施設、保育所、医院、役所」の他、「ハローワークのマザーズサロン」「子育て支援センター」「近くのスーパー」「飲食店」「幼稚園」「小学校」「学童保育施設」等、さまざまな場所で配布され、パンフレットを用いた広報活動に工夫されている様子が伝わってきました。パンフレットの市町村からの一斉配布については、121施設中「なし」が74施設(61%)「あり」が43施設(36%)「市によって違う」が1施設、回答なしが3施設という結果になりました。特に地方によっての傾向は見られず、各市町村の取り組み方の違いと言えそうです。パンフレットの作成については、「自施設にて」が88施設(73%)「役所にて」

が18施設(15%)「自施設及び役所にて」が13施設(11%)回答無しが2施設という結果でした。

今回企画を担当させていただき、パンフレットの内容はもとより、配布場所、市町村への一斉配布の依頼、作成等、興味深く拝見させていただきました。ご協力ありがとうございました。



お詫びと訂正

先般お届けいたしました「病児保育研究第3号」の表紙、および目次に著者氏名の誤りがありましたので、以下のように訂正いたします。

機関誌編集委員会

【表紙】 5. 私の経験の8行目

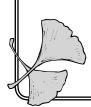
〔誤〕飛梅 薫 →〔正〕飛梅 董

【目次】 5. 私の経験の11行目

〔誤〕飛梅 薫 →〔正〕飛梅 董

• INFORMATION • :

次号(67号)のお知らせ



次号の67号では、「研修委員会アンケート結果報告」「インシデント管理システム (mims) をうまく活用できていますか?」「委員会紹介」「支部研修会報告」(岡山・大阪予定)を掲載する予定です。次号も盛りだくさんです。お楽しみに!



今回の研究大会のタイミングで当協議会も法人化され、新たに稲見会長が就任されました。

盛況だった研究大会の様子をお伝えするとともに、 新体制になり、ニュースもますます充実したものにし ていきたいと思います。 (神原雪子)

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

全国病児保育協議会 広報委員会

担当: みるく病児保育室 永野

〒860-0056 熊本市西区新土河原2丁目8-34 TEL.096-351-8825 FAX.096-351-8830 E-mail:npomilk2@cream.plala.or.jp

